

優れた石造美術や古墳群

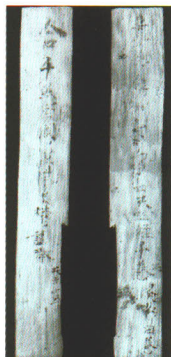
阿武隈川の流域に含まれる丘陵地帯や盆地が交互に連なる地形の中通り地区に位置する石川郡玉川村には、地域性を反映した濃厚な石造美術、多くの石仏・板碑などが広く点在し、それは阿弥陀浄土信仰が庶民の生活に強く根ざっていたことを意味します。

白華山巖峯寺にある国指定重要文化財「源基光の石造五輪塔」は密教教理の五大思想である空・風・火・水・地を石で立体的に形造り、方形の地輪（基礎）円形の水輪（塔身）・三角形の火輪（笠）・半月形の風輪（請花）・団形の空輪（宝珠）より構成されています。基石、塔身、笠屋根のみがその面影を残していますが、その威風堂々とした姿は荘厳で神々しく浸透はしていますが、石川一族の栄華をいまに伝えるものがあります。

東福寺は、東国布教僧・徳一上人の開基で日本三葉師として名高い古刹です。同寺の境内には、三十年に一度しか公開しない薬師如来像や鎌倉時代に造られた県重要文化財に指定されている十二神将を安置しています。

また、舍利石塔は、宝珠露盤を置いた屋蓋と塔身、台座で構成され、正面は石扉造りで高さ百八センチメートルの大きさ。周りには弥勒浄土の49院の名が刻まれ、龕内部の中央に孔穴があり、そこに舍利（骨）を納めるようになっていて、大日如来像でふさがれるようになっていました。鎌倉時代の弥勒浄土往來の思想を現在に伝える稀少価値のある石造物として、昭和10年に国の史跡に指定されています。

平成9年から本格的に発掘調査が行われた江平遺跡は、縄文時代晩期から奈良・平安、中世に至るまでの各種遺跡が発見された複合遺跡で、阿武隈川流域の歴史を解明するうえで注目されています。とくに奈良時代の歴史資料として出土した木簡は天平15年正月の聖武天皇詔に関する資料として全国的に大きな話題を集めました。この他にも、約5万㎡の広大な敷地からは木製の桶や鋤身、金属製紡垂などが見つかかり、当時の生活を裏づける貴重な発見となりました。



小高字江平平地内の沢地から出土した木簡は、聖武天皇が発した仏教令が当地にまで伝わったことを証明する貴重な資料として高い評価を受ける発見となった。



藤原時代末に領主源基光の墓として建立された五輪塔。仏教美術至上貴重な財産として巖峯寺参道の老杉傍らの覆堂に安置されている。



緑の苔むす東福寺境内にある舍利石塔。元久二年乙丑・当時の開山和尚の舍利が安置されていた。弥勒浄土往來の思想を表現している。